

平成29年度奈良県自然環境保全審議会 鳥獣部会  
会議録

- 1 日時：平成30年2月6日（火） 10:40～12:25
- 2 場所：やまと会議室 5階 中会議室
- 3 出席委員（部会長以下五十音順）  
鳥居部会長 今井委員 芝田委員 中川委員 揉井委員 八代田委員 吉岡委員
- 4 審議会の開会
  - ・会議の成立について  
委員8名中、7名の出席があり、奈良県自然環境保全審議会運営要綱第4条第4項の規定により会議は有効に成立する旨事務局から報告
  - ・部会長選出  
奈良県自然環境保全条例第16条3項の規定により鳥居委員を選出
  - ・職務代理の選出  
奈良県自然環境保全条例第16条5項の規定により吉岡委員を選出
  - ・会議録署名人の指名  
会議録署名人には中川委員並びに吉岡委員を指名
  - ・審議会の公開について  
「奈良県自然環境保全審議会の会議の公開等の取り扱い」で原則公開と規定されており、本日の部会も公開と決定
- 5 議事の概要

<第1号議案>

第12次鳥獣保護管理事業計画書（第1回変更）について

■説明

（事務局）計画（第1回変更）案の概要及び変更点について説明。

■意見等

（鳥居委員）

変更（案）について、オオタカの販売許可証の交付条件に足環をつけるとあるが、足環は着脱可能か。メジロでは死亡個体の足環を違う個体に付け替え、同じ個体が何十年も生きているという事例があった。それができないか確認できているのか。

（事務局）

足環は環境省から配布される。実物は確認できていない。

（鳥居委員）

足環が死亡個体のものか確認できるか。同じ個体かどうかを確認するためにマイクロチップの導入を考えて欲しい。

（揉井委員）

オオタカは専門的にも在来か外国産かの見分けは難しい。環境省のマニュアルをもってしても亜種間の識別が容易ではない。足環の付け替えが可能なのであればマイクロチップは良い方法だと思う。

(鳥居委員)

条件としてマイクロチップとの併用を記載して欲しい。先駆的な試みになる。

反対意見がないので、マイクロチップを加筆し条件付きで承認としたい。

(事務局)

この計画は国の指針に沿って作ることになっている。国の指針に上乘せする形になるので、一度国に報告させていただき、支障があるかどうか確認する。国から意見が出てきたら改めて相談させていただきたい。

→ 条件付きで承認。

## <報告事項 1 >

奈良県ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画（平成29年度モニタリング報告）について

### ■説明

(事務局) 概要を説明。

### ■意見等

(鳥居委員)

南部で捕獲数が減少している理由は。

(事務局)

集計できたが、減少理由まで考察できていない。

(今井委員)

必要な捕獲に対し狩猟免許取得者数は足りているのか。免許取得者は増加か減少か。被害状況は減少との数字がでていいる。実際には被害が増えていると聞く。被害が減少しているという報告とは合わないのではないか。

(事務局)

毎年200名程度が新規に狩猟免許を取得。最近はわな猟の取得者が増加。銃猟の取得者は一時減少したが新規取得者は増加。免許取得者は増加傾向にあるが被害が治まっていないという声を聞く。まだまだ狩猟免許取得者を増やしていかないといけない。南部の捕獲数は28年度冬に入ってから減少したと聞いている。月毎の捕獲数の変化を調べてみたい。

(中川委員)

免許取得者は捕獲できないと更新時にやめる方が多い。県に捕獲のコツを学べるような講習をお願いしたい。

(事務局)

狩猟者の担い手確保に向け、狩猟者の技術講習のための銃、わなの種毎に講習会を開催したいと考えている。

(八代田委員)

南部で捕獲頭数が減少したのは猟友会の高齢化で山奥まで捕りに行けないことが原因と考えられる。南部は林業が盛んな地域であり林業関係者からの人材育成が必要と考える。

(揉井委員)

昨年10月に奈良女子大学で狩猟者確保イベントがあった。若い方に関心を持っていただ

こうというイベントであったが参加者が少なかった。もっとPRが必要。そうすればもっと免許を取得しようという人が増えると思う。

(事務局)

準備不足もあったが継続してやっていきたい。PR、内容を充実し狩猟者確保に繋げていきたい。

## <報告事項2>

### 奈良県イノシシ第二種特定鳥獣管理計画（平成29年度モニタリング報告）について

#### ■説明

(事務局) 概要を説明。

#### ■意見等

(鳥居委員)

捕獲数がH28年度は7600頭を超えているのに捕獲目標を6100頭に下げるのはなぜか。

(事務局)

昨年度の部会で捕獲目標設定についてご意見ご提案いただいた。アンケート結果の評価から目標設定を変えていくとのご意見をいただいた。今回の目標設定は3年間平均。目標は捕獲数ではなくアンケートの評価から変更検討することになる。

(中川委員)

南部ではイノシシが減少している。北部ではイノブタが増加してきた。

(今井委員)

かなり柵を設置している。効果のある柵とない柵の違いは。

(事務局)

どういう形で防護柵を設置するかがポイント。設置場所やその後の維持管理が適切にされているところは効果がでていいる。管理にミスがあれば効果がでない。アンケートで聞き取りながら、設置したところを市町村と共に確認させていただければと思う。

(今井委員)

岐阜県郡上市に視察に行った。猪鹿鳥無猿柵を設置。設置後8年間被害がでていない。柵の設置についても研究して欲しい。

(事務局)

県でも捕獲の担い手の研修会とともに被害防除の研修会を実施。今年度は3月に防護柵の設置の仕方の研修会を開催予定。

(鳥居委員)

被害対策について、事業別より設置された柵の種類別にまとめて欲しい。電気柵など柵の種類で被害をまとめて欲しい。

## <報告事項3>

### 奈良県ツキノワグマ保護管理計画（平成29年度モニタリング報告）について

#### ■説明

(事務局) 概要を説明。

#### ■意見等

(鳥居委員)

捕獲は人家周辺か。

(事務局)

基本的に集落周辺。ニホンミツバチの蜜箱に誘引されて出沒。市町村役場からの申請に対して許可を出し捕獲、その後学習放獣で対応。

(鳥居委員)

下市町の錯誤捕獲は箱わなかくくりわなか。

(事務局)

有害捕獲の捕獲檻。

(鳥居委員)

学習放獣の例は2015年のもの。今回のものと違うのか。

(事務局)

例です。業者委託で放獣。業者から報告があれば今年度のものに差し替えます。

(八代田委員)

林業被害調査ではクマ剥ぎが一定数発生。今後被害が増加した場合どのような対策をとるのか。

(事務局)

被害対策はリンロンテープ等がある。剥皮防止の方法等を情報提供している。それ以上のものは林家から求められていない。これから被害の拡大やクマの生息域が人家に近くなり人身事故の可能性が高まっていく状況が続いた場合、対応を事務局で考え、審議会で諮らさせていただきたい。

(中川委員)

林業が盛んな時は山の手入れをしており、獣のマナーがよかった。山に人間が入らない状況。昔は獣道あったが今は歩けないのでいたる所を通る。人間にも責任がある。

#### < 報告事項 4 >

奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画（平成29年度モニタリング報告）について

##### ■説明

（奈良公園室）概要を説明。

質疑なし